



働くということ

校長 野 島 峰 彦

「はたらく」という言葉の語源は、「傍(はた)」を「楽(らく)」にすることと昔テレビのCMで見たことがあります。そばにいる人を、楽にしてあげるといった内容で心がホカホカした記憶があります。その一方で、小学館の「古語大辞典」では、「はたらく」は語源的には「はためく」と同様に「旗」からの派生語であり、「はたらく」は旗のようにばたばた動く様から、人や物が活発に動いている様を意味し、鎌倉時代に「人」と「動」を合わせて「働」という国字が作られて仕事を表現するようになったとの旨が、記載されています。また、英語で「働く」の意「work」は古い英語の「動く」が語源になっているそうです。日本語でも英語でも「はたらく」の語源に「動く」が関わっているところに、働くことの基本は体を動かすことを思わせます。

さて、ドイツ語で「はたらく」は「arbeiten」で、労働・仕事・研究を意味する名詞は「arbeit」です。この言葉が日本での「アルバイト」の語源であると言われています。明治時代に旧制高等学校の学生の間で使われたこの言葉が、本業、学業の片手間にする仕事の呼称として一般に広まったとされています。様々な外来語を日本語に取り入れる柔軟さを物語っています。ちなみに、「arbeit」のドイツ語の語源には苦勞して働くというニュアンスがあるようです。

子どもたちは、高等部を卒業後それぞれの進路先で、働いたり生活したりして社会生活を送ることになります。冒頭の「傍を楽にする」に通ずるものですが、「自分のしていることが、人のために何らかの形で役に立っている」というやりがいを胸に、たとえ辛いと思うことがあっても、日々、健康で明るく元気に過ごしてくれることを、心から願っています。

令和5年度 高等部卒業生の進路先

生徒自身の「ここで働きたい」「ここで過ごしたい」という希望を大切に進路指導を進めてきました。生徒たちは、就業体験を振り返ったり、進路面談で先生と相談したりして自分の進路先について考え、学校生活の中で目標を設定して努力を重ねてきました。卒業後は、社会人として、地域の中で「働き」「生活する」こととなります。それぞれ次のステージで、社会人としてさらに成長してくれることを期待しています。

卒業生23名

- ・就職 3名
- ・障害福祉サービス利用 20名

- ・新生苑
- ・いみず苑ひだまり
- ・いみず苑かがやき
- ・Beeこぱん
- ・アシストたての
- ・フクシアケアセンター
- ・宙

生活介護
12名

就職 3名

就労移行
支援 1名

就労継続支援
B型 7名

・作業センターふじなみ



- ・おかげさま
- ・る・ふっくらん
- ・ワークスタかおか
- ・ワークステんもく
- ・すこやか26
- ・b-らいふ・きゃんぱす
- ・ジョブステーションさくら北部事業所



中学部2年生の生活単元学習「いろいろな仕事」では、「仕事について知る」「仕事を体験する」の二つを柱として学習に取り組みました。

前半の「仕事について知る」では、インターネットや本を見ながら、どんな仕事があるのかを調べたり、家族がどんな仕事をしているのかインタビューをしたりして、仕事の大変さ、仕事をするときに大切なことを考える学習をしました。

後半の「仕事を体験する」では、「タオル畳み」「クッキーの袋詰め」「ネジや説明書の袋詰め」の仕事に分かれて、それぞれの仕事を体験しました。仕事の体験では、その日の仕事量に応じて給料がもらえ、最終日には、本物の給料をもらうことができました。

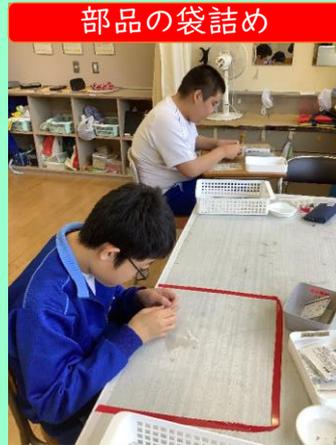
子供たちからは、「仕事をするときに大切なことは、学校でも大切なことだと分かった」「仕事をしたら給料がもらえてうれしい」などの声が聞かれました。

この単元を通じて、働くことの大変さや働くことの喜びを感じることができ、働くために必要なことをそれぞれが考えるいい体験になりました。

クッキーの袋詰め



部品の袋詰め



タオル畳み



キャリア教育推進委員会

1月30日(火)

キャリア教育推進委員会では、今年度の進路指導の取組を紹介しました。外部委員の方からは、本校の進路指導について貴重な助言をいただきました。



<外部委員>

- | | | |
|---------------------|----------|---------|
| ・高岡公共職業安定所 | 統括職業指導官 | 福富 千絵 氏 |
| ・高岡障害者就業・生活支援センター | 就業支援ワーカー | 牧野 優子 氏 |
| ・株式会社PERSON'S あかり | 施設長 | 金岡 妙子 氏 |
| ・NPO法人bーらいふ | 理事長 | 永森 栄一 氏 |
| ・特別支援学校就労応援コーディネーター | | 関口 利浩 氏 |

①就業体験について

障害のある方は、人から聞いた話や本で読んだことなどを自分に置き換えてイメージすることは難しい。自分自身でやってみて振り返る就業体験は大切なカリキュラムである。

早い段階で進路先が決まっていたとしても、1回目の就業体験で「この事業所に通いたい」と決めたとしても、他の事業所も体験して「やっぱりここに行きたい」というのも本人が進路選択する上で大切なことである。

ステップアップの可能性があれば、チャレンジしてみることも大切である。

②小学部児童の仕事体験について

子供のときから働く場を見たり体験を重ねていくことがあったりしたら、自分の進路を考えるときにスムーズにイメージが湧いてくるのではと考える。「楽しかった」「頑張ったことを認めてもらえた」「ありがとうって言ってもらえた」という経験になればよい。

③アセスメントについて

本人の障害特性を読み解いて、どのように情報を伝えて進路指導を進めていくか、専門性が問われる。

特に、発達障害、自閉症の方の情報のキャッチの仕方や物の捉え方は、周りが思っていることとは異なる。

受け入れる事業所や相談機関の立場として・・・

・放課後等デイサービス、生活介護、就労継続支援B型、A型など、全ての事業所が連携して、本人をどう成長させていくか考え、スモールステップでステップアップしていくことが大切。一つの事業所で抱え込むべきではない。たくさんの福祉サービス事業所を利用するという事は、それだけ、その地域に本人の支援者を増やすということである。

・家庭環境や保護者の関わり方、保護者の本音の気持ちも知りたい。

・学校での支援に加え、本人の夢も引き継ぎ、体制や環境を整えた上で受け入れをしている。「教育と福祉の間に段差をつけない」こと、本人がどんな人生を歩んでいけばよいかを、本人、保護者、学校と共有することを大切にしている。